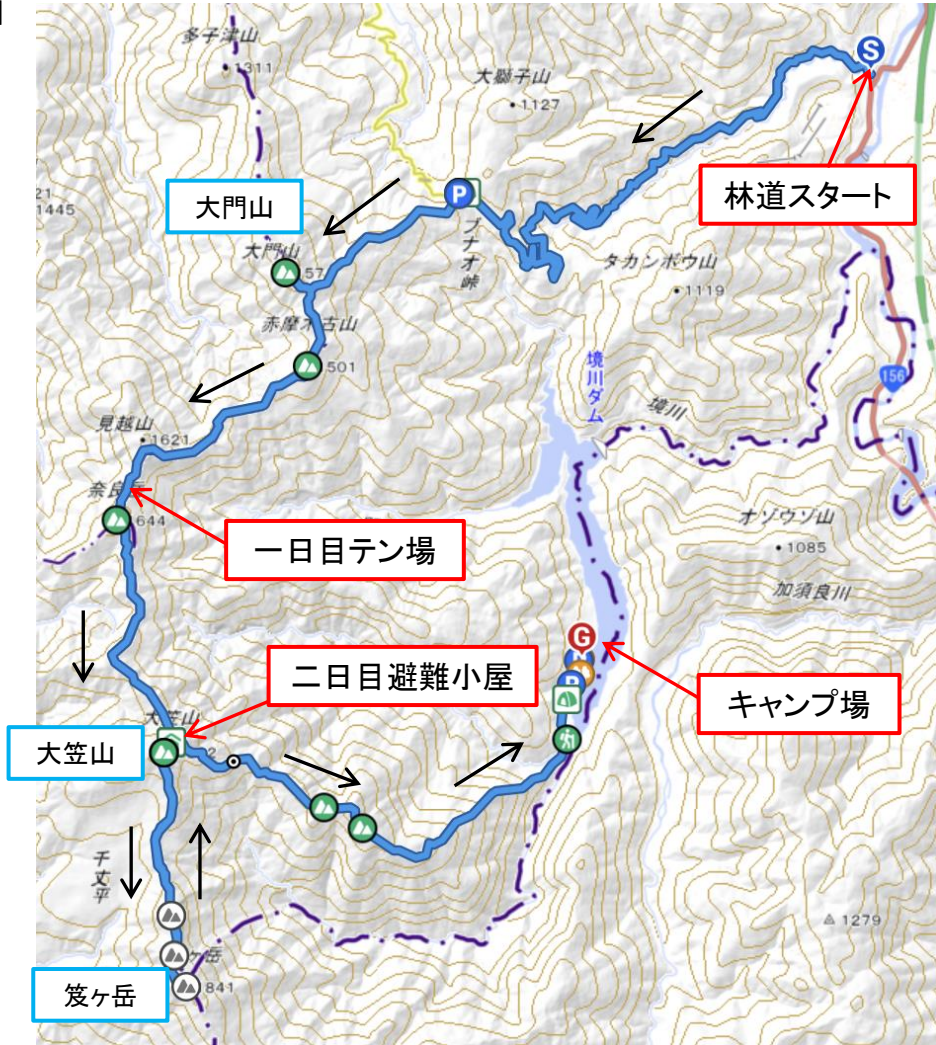


26年度春山合宿山行報告書		報告者	佐々木	参加メンバー	CL 谷口 鈴木よ、田中、本多、佐々木
		報告日	26/5/14		
山域	白山	山行日	26/4/29(水)~ 26/5/1(金)		
山名	大門山・大笠山・笈ヶ岳				
山行目的	部員のレベルアップ、相互親睦				

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者

ルート図



〈山行報告〉

〈第1日〉 4/29(水) 曇【鈴木よ 記】

【行動記録】 行動時間: 6H00M

林道ゲート(07:00) - ブナオ峠(9:40) - 大門山(11:50) - 赤魔木古山(12:30) - 奈良岳テン場(15:30)

集合した時点で谷口CLより「車を1台に変更して下山口からスタート地点まで10k徒歩移動」と提案され皆で了承、1台に全員乗り込み移動。

スタート地点からブナオ峠まで10kの舗装林道、冬靴での歩行が辛いので各自クロックスサンダル、スニーカー等それぞれでスタートした。

確認
(リーダー)

谷
26.05.14
口

作成
(報告者)

佐々
2026.5.6
木

【山行報告(続き)】

2.5時間かけてブナオ峠登山口に到着。冬靴に履き替えて大門山を目指す。雪はほとんどなく順調に進む。1.5時間かけて大門山分岐、大門山まではピストンのため荷物をデポしアイゼン装着、ピッケル持ってようやく雪山登山という感じになった。山頂には標識が雪で埋もれて何もなかったが300名山の写真をとって戻り再スタート、赤摩木古山までは近かった。

見越山を超えてテント場の適地を探しながら進む。雪があったり無かったりでアイゼンの脱着のタイミングが難しい。行動時間も8時間を超えてメンバーに疲れが出てきた頃にテント適地に到着。計画よりも随分前進出来た。

テントを設営しノンビリしたあと夕食は美味しい鍋&雑炊を食べて18:00ごろ就寝



林道に生えている山椒を配るCL



一座目の三百名山の大門山



眺望の良い場所で幕営

<第2日> 4/30(木) 曇り【佐々木 記】

【行動記録】行動時間:9H30M

起床(3:00)ーテン場出発(4:40)ー奈良岳(4:50)ー大笠山避難小屋(7:15)ー大笠山(7:40)ー宝剣岳(9:40)ー錫杖岳(10:30)ー笈ヶ岳(11:10)ー錫杖岳(12:10)ー宝剣岳(13:10)ー大笠山避難小屋(15:10)

3時にエスパースに集合し、各自で用意したカップ麺などで朝食を済ませる。明るくなるまで少々待機しテントを撤収後、4:40頃出発。夏道、雪、藪といった三種の道をひたすら歩く。夏道は藪が刈られた形跡があるものの決して歩きやすくはないためなるべく雪上を歩く。途中で雪が切れるとちょっとした藪を漕いで夏道に出る。これの繰り返しを2時間半ほど続けて7:15に大笠山避難小屋に到着。小屋はかなり綺麗で、「食べてください」と書かれた非常食まで完備。荷物を小屋にデポし、大笠山と笈ヶ岳を目指し再び歩き始める。

大笠山は避難小屋の目の前で、二座目の三百名山に登頂。写真撮影を済まして大笠山から先へ進もうとするも、周囲は背丈以上の笹藪に囲まれており道が見当たらない…明らかにこれまでとは違う密度の藪を前に絶望するが、意を決して藪の中に突入する。背丈以上ある笹藪を掻き分けて進み、開けた雪の上に出る。この雪の上をなるべく歩いていきたいところだが、そう思い通りにはいかず、しばらく進むと雪が途切れ藪に戻される。



大笠山山頂



大笠山直後の藪

【山行報告(続き)】

以降、例によって藪漕ぎと雪歩きを繰り返す。いちいちアイゼンを外してもいられず、アイゼンを履いたまま藪漕ぎをする。しかしアイゼンの爪が藪に引っかかり歩きにくい上に、灌木を乗り越えるために重りをつけたような脚を大きく上げなければならず、想像以上に体力が削られる。なんとか雪を繋ぎながら藪を漕ぎ、1時間ほどで宝剣岳直下に到着。雪の急登を(なぜか)横一列になって進み宝剣岳(藪に覆われていて標識などはない)を通過。宝剣岳のピークあたりからは引き続き藪漕ぎ。個人的にこの辺りの藪は灌木の密度が強烈で最もひどかった。。。



雪と藪の境目 正面が笈ヶ岳

そんなひどい藪の中を下り、錫杖岳前のコルまで下りたあたりで事件が発生する。田中さんのピッケルがない！振り返ると、50メートルほど後方の藪の中にピッケルがひっかかっており、ここで田中さんの心が完全に折れる。田中さんと鈴木よさんは引き返してそのまま小屋まで戻り、谷口CL、本多さん、佐々木で行けるところまで行くことに。

2人と別れて30分ほどで錫杖岳に到着。ようやく笈ヶ岳近くに見え、そのまま藪を漕いで尾根上を進むか、一度少し下りてルンゼの雪道を歩くか話し合い、ルンゼを進むことに。山頂へ向けてルンゼを登っていくとうまい具合に山頂手前の藪まで抜けることができ、大正解であった。

勢いそのままに最後の藪漕ぎをし11:10、遂に笈ヶ岳の山頂に到着。三人で握手とハイタッチを交わし喜びを分かち合う。しばらく山頂で休憩した後、小屋へ戻り始める。精神的にも肉体的にも限界が来ていたが、帰らないとどうしようもないので気合いで藪を漕ぎ続け、15時頃小屋に到着。小屋では鈴木よさんと田中さんが待っており、全員無事に戻ることができた。

小屋に備蓄されていた豆スープと担々うどん1人2玉を食べて19時頃就寝。



横一列の急登



ピッケルを探せ



笈ヶ岳山頂

<第3日> 5/1(金) 雨のち曇り【田中 記】

【行動記録】行動時間: 9H30M

起床(4:00)ー出発(5:00)ー前笈ヶ岳(6:40)ー桂湖オートキャンプ場(8:50)

夜中、風の音がやかましかったがそれでも比較的よく寝られた。避難小屋は素晴らしい。のんびりと準備を済ませて5:00に下山を開始する。基本的に夏道を使って下りるが、道が雪に覆われている箇所が多々あり、そこでルートロストしかけることが度々あった。藪はもう漕ぎたくないため、頑張ってルートファインディングをする。

【山行報告(続き)】

標高が下がるにつれて雪は消え、完全に夏道になるが、急斜面かつ前日の雨の影響で滑りやすくなっていたため、かなり神経を使った。体力は残っているのに疲れてしまう。そうこうしていると、ようやくゴールの桂湖が見えた。純君はそれを見てかなり喜んでしたが、まだまだ遠い。その後も無心で歩き続け、8:50にオートキャンプ場に到着。無事合宿を完遂できたことをみんなで分かち合った。

桂湖のビジターセンターでシュワシュワを飲んだ後、車を回収するために谷口さん、鈴木さんが10kmの林道を歩いてくれた。(ありがとうございます。m(_ _)m)その後は、お風呂と下界飯を堪能し、帰路についた。



ゴール目の吊り橋で撮影



トンネルはとても暗かったとのこと



激レアらしい

【食料】本多

■1日目 鳥豚ゴマ坦々鍋、雑炊

■2日目 坦々うどん、ささみ

■所見

食担と知ったのが前週の木曜、その週末は妙高・火打で買い出し行くヒマなし…ということで今回の食担は(も?)ほぼうちの奥さんです。

初日は鍋、ですがスーパーから鍋コーナーは撤去されつつあり…冬合宿と同じプチっとシリーズ。肉は鶏肉と豚肉を炒めて凍らせて野菜はパック野菜4袋+春雨、メは冷凍ご飯で雑炊。曇り空だったこともあり調理する時まで凍ったままでした。

2日目は常温保存可能なうどん(2玉/人)+鶏ササミパック+坦々麺のスープ(タレ?)

どちらもなかなかの重量でしたが量も十分な合宿メシになったかと思えます。



一日目のごま坦々鍋



二日目の坦々うどん

【装備】谷口

■共同装備

エスパース(4人用テント)、ダンロップ(3人用テント)、ストーブx1、ガス缶Lx1、コッヘル(大中)、ランタンx2、スコップx1、水2Lx3ほか

■所見

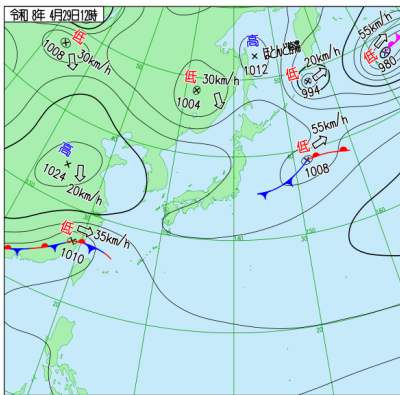
- ・5人全員エスパースに入り夕食をまとめて作ることができた。テント内暖房なしで200g程度のガス消費量。
- ・水場は大笠山9合目付近にあるとの情報があったが、雪に埋もれており形跡はなかった。担ぎ上げた共同6Lのほか笈ヶ岳直下の雪渓で水を汲んだのと、大笠山付近の雪を利用した。
- ・雪は少なく安定していると判断し、アバランチギアは置いていくことにした。
- ・テントは初日のみ利用。残雪がありテント適地はいくつかあった。
- ・二日目の大笠山避難小屋は5人でちょうどよい立派な小屋で、夜間の雨風があっても快適に過ごせた。

【会計】

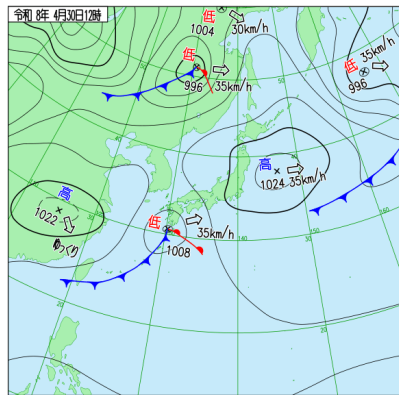
- ・交通費:17,386円
- ・食費:6,000円

【気象】

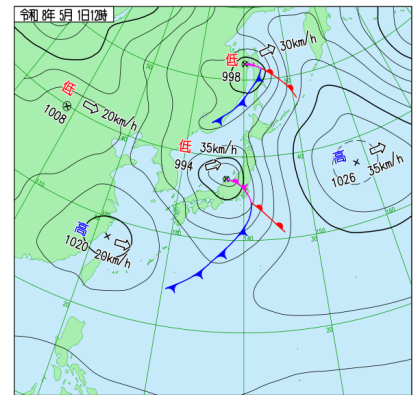
4/29入山時から風がなく雲が残るが、高気圧が通過しすこしやすい天気。4/30昼すぎ頃から低気圧が近づき、風が強くなり雨がたまにぱらつく。5/1にかけて稜線では強い風と小雨。富山県では雷・強風注意報が発表される。前線が通過し下山する昼頃に本降りの雨。



4/29(水)



4/30(木)



5/1(金)

【メンバ所見】

■CL 谷口

三百名山チャレンジの一環で笈ヶ岳に登りたいと考えていたところ、過去の春山合宿で行ったことがあるとOBの金子さんから紹介いただきこのルートに決めました。近年の暖冬のため過去の合宿と比べるとルートを縮小せざるを得ませんでした。雪上、荒れた夏道、藪漕ぎと状況が変わる難しいルートに対処しながら、計画通りに進められたことはメンバーのスキルアップにつながり、合宿として大成功だったと思います。みんなで行ったからこそ藪漕ぎも楽しく、記憶に残る合宿でした。同行メンバーならびにサポートしていただいた皆様ありがとうございました。

【メンバ所見】

■鈴木よ

久し振りにキツイ山行だった。距離も長く、標高は低いながらも登り下りが多いし斜度がキツイ所も多かった。本格的な藪コギも辛く体力を奪われた。残雪ながら急斜面のトラバース、クライムダウン等技量を求められる場面も多く総合的に若いメンバーには良い経験になったと思いました。

■本多

林道歩き、残雪、ヤブと色々楽しめる(?)山行でした。特に藪は踏み跡なし灌木いっぱい、非常に手ごたえがありました。総合力が鍛えられるいい合宿だったと思います。

■田中

とても記憶に残る山行になりました。特に大笠山～笈ヶ岳の稜線。心が折れてリタイアしてしまい悔しいですが、それでも数十年あのルートには行きたくないです。これを書いている今でも藪のガサゴソした音が頭の中でリフレインします。リタイアはしましたが、宝剣岳を超えたところの鞍部まで頑張れたのは同行したメンバーのおかげです。一人では無理でした。感謝です。

■佐々木

ここまで本格的な藪漕ぎは初めてでかなりしんどかったですが、その分得られるものも多く、また一つ自分の登山の幅が広がったような気がして嬉しく思います。山を続けていればまたいずれ藪を漕がなくてはならない場面は来ると思うので、その時のためにも体力、藪漕ぎ力の向上に努めていきたいです。



大笠山山頂付近から望む笈ヶ岳